



宝町50周年記念昔話～

宝町初代町会長 岩瀬 更生

～宝町50周年記念式典～

令和7年12月21日(日) 13:30～

宝泉行政センター



宝町50周年おめでとうございます。

今日は、宝町の初期の頃の昔話をさせていただきます。

昭和51年5月、まだ整備されていない中央公園に270人あまりが集まり、宝町自治会の設立総会が開かれました。

集まったのは20代から30代がほとんど、40代が少々と言った顔ぶれです。

これらの若い力で、これからの宝町をつくるのです。

議事が終わり、懇談の場では多くの意見や要望が出されました。

無理ありません。当時生活関連施設といえば A コープがあるだけで、他には何も無い「草っ原だけの宝町」でした。

それから要望を整理して、「新規事業の陳情書」や「既決事業の促進願」を作り、県や市や関係機関に向いてお願いを繰り返しました。

これらの活動を指導し同行もしてくれた地元市議の長谷川さんをはじめ、県議の武川さん、福田さん、山崎さんなど、多くの方々のご支援、ご協力をいただきました。

皆さん故人とされましたが、この場を借りて感謝を申し上げます。ありがとうございました。

こうした努力が実を結び、ようやく陳情の成果が出ます。同年末に群馬銀行が開店しました。開店記念として、集会所で使う机やイス、その他の備品を寄付していただけたという、うれしいおまけ付きです。

昭和52年に入り、待ちに待った集会所が中央公園内に完成し、毎週会議で利用していた役員の自宅が解放されました。

町内活動の拠点として集会所は毎日利用が絶えません。

また、東公園、西公園もでき、子どもたちは大喜びです。

53年には道路舗装が完了。それに伴って路面標識や信号なども整備されました。そして中央公園の裏には新しい橋ができ、東部地区と南部地区がつながりました。

54年に入り、太田～尾島間を結ぶ1日7往復の東武バスが乗り入れ、続いて郵便局も開局しました。

これにより、設立総会の時に出されたすべての要望が完結し、宝町は近隣に誇れる「生活環境に恵まれた街」となりましたとき。

以上で、宝町昔話の第1話を終わります。

2話、3話があるのですが、それはまた次の機会といたします。

ご静聴ありがとうございました。

また、本日はお招きをいただき誠にありがとうございました。

第1話はおもに陳情活動についてのお話でした。

第2話は、町内の行事や、活動についてのお話です。

51年8月、中央公園乙女の像の周囲に水を張り、金魚すくい&ドジョウつかみ、夜は有志による8ミリ映画の鑑賞。それが宝町第1回の夏祭りでした。

12月には、宝診療所で子どもクリスマス会を行いました。

52年、知人より車体取付用拡声器を借り受け、防犯等の広報活動を開始。

防犯部は夜間巡回で危険箇所を選定、毎年14～15灯の防犯灯を設置し、明るく安全な街づくりに努めています。防犯灯の寄付もありました。

文体部は、さまざまな趣味の同好会の発足に協力し、後には同好会との共催で囲碁・将棋大会や写真・絵画展、卓球、バレーボール、バドミントン、水泳、ゴルフ等のスポーツ大会を企画、開催しています。

毎年5月の勤労奉仕では、保健衛生部が中心となり公園の他に東西の用水路の清掃を行い、きれいになった水路で夜、子どもたちとの「灯籠流し」を楽しみました。

更に翌年には、太田市の「衛生モデル地区」の指定を受けています。

7月、宝町のマークが決定しました。

62点の応募作品の中から、「宝」を中心に据え6つの地区が取り囲む、協調と未来への発展をイメージしたデザインが選定されました。なお、第2次、3次審査に

は、戸澤太田市長や宝泉公民館長にも加わっていただきました。ありがとうございました。

53年3月、町を挙げての模擬火災訓練です。宝町は第3出動が発令される大火という想定で、太田市中の消防車が宝町に集結しました。

対策本部が置かれたAコープ北角周辺は大変な人だかりとなりました。

53年4月、宝泉中学校が開校。小学校も新校舎を増築しました。

当時の宝町の子ども数は1,600人を超えていたため、宝泉小宝町側通用門の設置や宝町東入口道路の拡幅・直線化の陳情も行いました。

また、毎年行う交通安全協会による「交通安全教室」は子どもたちに大変人気がありました。

警察パトカーが目当てだったのかな？

50年から始まった「宝町親子大運動会」は毎年盛況でした。

地区対抗の選手選考にわが子を出場させたい親たちが競い合う姿が目には浮かびます。

また、交通事情により2年で終了となりましたが、元旦マラソンもやりました。

第3回夏祭りでは、有志が手作りした「子ども本神輿」を展示、翌年にはそれを担いで子どもたちは大喜びでした。

第5回夏祭りには、高さ10m3層造りの櫓と舞台(鉄骨)が完成しました。

これは、知人の工場の片隅を借り、役員や有志が

休日のたびに出向いて各自の技で作り上げたものです。

提灯の点灯した舞台は特に美しく、祭りを大いに盛り上げました。

話はまだまだありますが、この辺でひとまず終わり、次のお話に移ります。

第3話は、町会の資金繰りと10年のまとめのお話です。

当時の町会費は、一般250円、公営住宅200円でした。資金ゼロからのスタートです。日々生じる支払いは担当者が立替え払いし、後日精算する方式でしたが、入金額が少なく遅いため、精算せず寄付に替えた例も多々ありました。

中でも頭を悩ませたのは、毎年期初に納める宝泉地区各種負担金等の高額支出でした。集金を待って半期遅れ払いや期末払い、時にはテレビ受信施設組合からの借入金でなんとか対応しました。

期末に市からいただく区長事務委託料等は町の貴重な財源でした。

各種行事においては、役員の勤務先の設備や機器の借用、自己保有の器具や材料の提供等「買うより借りる そして勤労奉仕 最小の費用で最高の行事」を念頭に置いた活動が、貧乏会計を支えました。

その後は、毎年の世帯数増加に伴い、少しずつゆとりが生まれ、54～55年頃には会計も正常に回るようになりましたとさ。

自治会設立から10年、昭和60年の市の統計では、人口4,268人、世帯数1,115世帯、子どもの数は約2,000人となり、市内行政区ではいちばん大きな町へと成長しました。

私は56年度末に職を退きましたが、引き継がれた町内活動により更に発展を遂げた宝町を見守り続けています。

以上で、宝町初期の話(昔話)の全話を終わります。

回顧

宝町初期時代、一緒に活動してくれた仲間たちは現在その多くが世を去っています。

改めて、お疲れ様でしたと申し上げるとともに、生き残りを代表して私が「宝町50周年記念式典」に招待されたことを報告させていただきます。

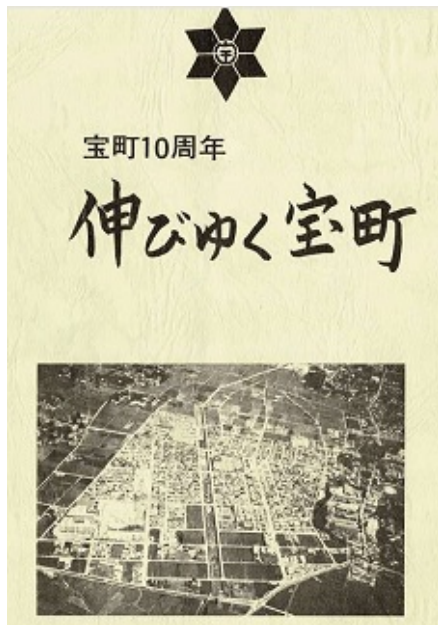
皆で作り上げた宝町、末永く幸あれと祈念いたします。

令和7年12月 岩瀬 更生



10周年記念冊子～

宝町10周年記念冊子



宝町20周年記念冊子



<両冊子、表紙クリックするとファイル開いて閲覧できます。>

宝町町会 歴代町会長

1	岩瀬 更生	S51～S56
2	平間 正二郎	S57～S57
3	本多 俊一	S58～S59
4	岩崎 幸助	S60～S61
5	堀江 雅司	S62～S63
6	西倉 志郎	H01～H04
7	清水 武夫	H05～H07
8	平田 雅之助	H14～H17
9	根岸 好	H18～H21
10	山下 典男	H22～H22
11	飯野 政雄	H23～H24

宝町自治会 歴代自治会長

1	飯野 政雄	H25～H27
2	高木 政一	H28～R01
3	五十嵐一二三	R02～R05
4	中庭 徹	R06～

<編集後記>

以前にも岩瀬さんから宝町町会立ち上げ時の思い出話聞いたことがあります。

当時30～40代の有志の皆様が毎晩のように岩瀬さん宅に集まり、侃々諤々の議論を重ね、寝食を忘れる程の情熱を傾けてきたこと忘れ難い思い出との事でした。

心より先人の皆様に感謝申し上げます。

(五十嵐 記)